

福本 敏 先生



九州大学歯学研究院
口腔保健推進学講座
東北大学大学院歯学研究科
小児発達歯科学分野
教授

■ 日時： 令和4年 **11月2日** **水** 17:00~18:30

■ 場所： 徳島大学歯学部3F 講堂

タイトル 抗がん剤による歯の形成異常を防ぐことはできるのか？

小児白血病などは抗がん剤の開発やその組み合わせによりその治療効果が劇的に向上しており、不治の病から治る疾患へとようになってきた。しかしながら小児期における抗がん剤や放射線治療により、歯の先天欠如や矮小歯、エナメル質等の形成異常を生じることが多く、これらが生涯にわたって口腔機能の低下や審美的な障害の大きな要因となっている。我々はこれら抗がん剤の歯の形成に及ぼす影響を検討する目的で、歯胚器官培養系を用いて、どのような抗がん剤が、どの時期の発生に影響を及ぼすか検討してきた。さらに器官培養系において通常37度で培養する条件を25度にまで低下させた際には、様々な抗がん剤の影響が軽減され、再度37度に戻した場合には通常の器官発生が回復することを見出した。同様の現象は歯胚のみならず、唾液腺胚や毛包の器官培養においても確認できた。このような知見は、将来的に抗がん剤医療における歯胚の保護に役立つと考えられる。本セミナーでは、温度低下における歯胚保護機構の分子機序について紹介したい。